

加古川労働基準監督署管内

注意 労働災害が多発中！

4月以降、製造業で2人・建設業で1人・卸売業で1人が死亡

加古川労働基準監督署

監督署からのお願い

加古川労働基準監督署管内では本年4月以降7月末までの間で、4人もの労働者が亡くなり、大変憂慮すべき事態となっています。

また、休業4日以上労働災害は、昨年同期と比べ大幅に増加している状況にあります。

今一度、自社の作業内容・環境をご確認していただき、労使一丸となりより一層の労働災害防止活動に取り組んでいただくことをお願いいたします。

(災害発生状況は裏面に記載しています)

～労働災害の発生に歯止めをかけるため～

安全作業マニュアルの遵守状況を確認するなど、職場内の安全衛生活動の総点検を実施しましょう。

徹底的に職場に潜む危険、有害性を洗い出し、リスクアセスメントを実施しましょう。更に残留リスクを管理して、許容できないリスクの無い職場づくりを目指しましょう。許容できないリスクが残る場合は、そのリスクを関係労働者に必ず周知しましょう。

労働災害の3割以上を占める転倒災害を撲滅するため、職場における転倒災害防止対策に積極的に取り組みましょう。

高齢労働者の労働災害が増加しています。「エイジフレンドリーガイドライン」を推進しましょう。

雇入れ時教育、職長教育、OJT等を徹底し、効果的な安全衛生教育を実施しましょう。

KYT、ヒヤリハット活動等に取り組み、労働者の危険に対する感受性、安全意識の高揚に努めましょう。

外国人労働者に対して、適切な工夫を施した安全衛生教育を実施し、作業手順や安全のためのルールを理解してもらいましょう。

加古川労働基準監督署管内 令和5年労働災害発生状況

【死亡災害（7月末）】4人（前年同期2人）

事業場構内を歩いて移動中、後進してきたトラックに轢かれた。

（4月発生、製造業、40歳台）

自動倉庫内のスタッカークレーンの走行範囲に立ち上がったところ、自動走行してきたスタッカークレーンに激突された。

（4月発生、製造業、50歳台）

事業場敷地内の5段に積み上げられた荷（パレットに載せられた金属材料）の側で作業していたところ、荷崩れが発生し荷が直撃した。

（6月発生、卸売業、30歳台）

造成工事現場で型枠組立作業に従事、作業が終了し片付けを行っていたところ、熱中症によりふらつき始め、受け答えができない状態になり救急要請した。（7月発生、建設業、50歳台）

令和5年（1～7月）労働災害発生状況

業種	令和5年（1～7月）	前年同期
	死傷者数（人）	死傷者数（人）
全産業	426 (4)	363 (2)
製造業	129 (2)	111 (1)
建設業	39 (1)	24
陸上貨物運送業	41	42
商業	62 (1)	45
保健衛生業	68	47
接客娯楽業	30	24
その他	54 (1)	67 (1)

（ ）内の数値は死亡者数（内数）を表す
新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く

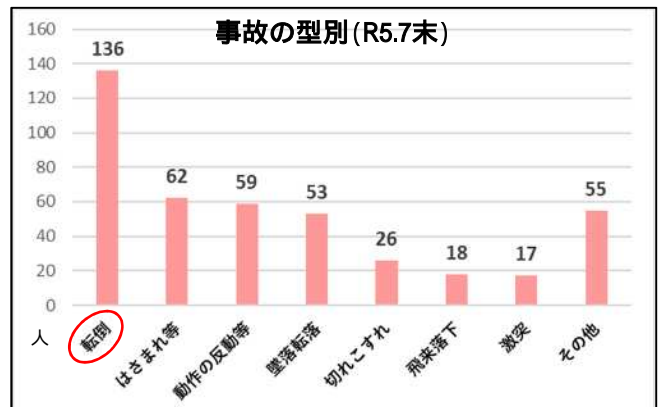
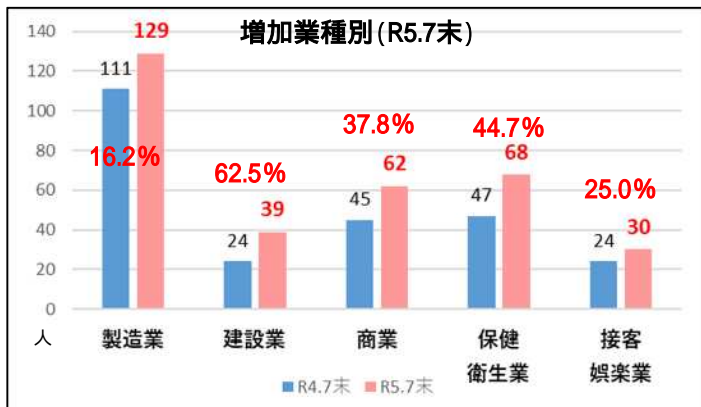
【死傷災害（7月末）】426人（前年同期363人）（63人（17.4%）増加）

休業4日以上労働災害は、昨年同期と比べ大幅に増加しています。7月末時点で、コロナり患による労働災害を除き、426人の方が被災しています。

増加している主な業種は、製造業、建設業、商業、保健衛生業となっています。

事故の型別では、全産業で「転倒」災害が最も多く136人（31.9%）、次いで「はさまれ・巻き込まれ」災害で62人、「動作の反動・無理な動作」災害で59人、「墜落・転落」災害で53人ととなっています。

「転倒」災害は業種横断的に発生しており、また、製造業では「はさまれ・巻き込まれ」災害、建設業では「墜落・転落」災害で多く発生しています。



（新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除いた人数）

～労働災害防止ツールサイト～



職場の安全を応援する
情報発信サイト
「職場のあんぜんサイト」

職場のあんぜんサイト
「リスクアセスメントの
実施支援システム」



職場のあんぜんサイト
「転倒災害防止対策の
推進について」



エイジフレンドリー
ガイドライン
リーフレット（R5.6版）

